



2019年「治療と仕事の両立支援」シンポジウム／セミナー 今年度は全国26か所で開催

2017年に東京で開催された「治療と仕事の両立支援」シンポジウム／セミナーが、2018年度には北海道や福岡など全国8か所に広がり、2019年度には全国26か所で開催される計画だ。その皮切りとして今年度最初の大会が7月25日、三重県津市の三重県総合文化センターで開かれた。

第一部では、ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループの統括産業医を務める岡原伸太郎氏による基調講演が行われた。テーマを「『治療と仕事の両立支援』の進め方」と掲げ、統計による現状分析を披露したり、オーディエンスにも質問したりしながらの内容豊富な講演で、当日集まったオーディエンスのみなさんは熱心にメモをとりながら聞き入っていた。

第二部では、パネルディスカッションが行われ、企業や機関を代表して参加した6人のパネラーがそれぞれで進める両立支援の事例を紹介しあった。司会進行役のモデレーターは三重産業医会の酒井会長が務め、先に登場した岡原氏もオブザーバーとして参加した。

(株)宝輪の山崎氏によるプレゼンテーションでは、病気が判明してすぐに上司から社長までが参加する会議を開き、まず1か月の休暇を与えうえで対応を進めた事例を紹介。本人はその後職場に復帰して、さらに昇進も果たしたという。(株)東産業の秋田専務は、ケースごとに「復職プログラム」を作成する自社の体制について報告。

「お試し出勤規程」という独自の制度や、定期健康診断に会社負担で乳がん・子宮がん健診、ドック健診を追加したり、スマホのアプリによる睡眠時無呼吸症候群検査を導入したりなどさまざまな取組を披露した。

また、キャリアコンサルタント資格を持つ鈴木氏は、病気を持つ方への就労支援の取組事例を紹介。三重大学医学部附属病院でがん看護専門看護師を務める堀口氏は、病院側から見た両立支援の取組事例について詳しく解説した。(独)労働者健康安全機構・三重産業保健総合支援センターの西村副所長は、機構の位置づけや三重産業保健総合支援センターの多様な活動事例について詳しく紹介し、積極的利用を呼び掛けた。

パネラーそれぞれのプレゼンテーションの内容が濃く、時間は押し気味に進行。最後にいくつかの質問のやりとりが行われ、ほどなく終了した。

今後、同種の催しは全国で順次行われていく。開催予定日などの詳細は下記を参照してほしい。

<https://chiryoutoshigoto.mhlw.go.jp/symposium/2019/index.html>



ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人 健康管理室 統括産業医 岡原伸太郎



パネルディスカッション「～明日から始める治療と仕事の両立支援～」
多様な事例が披露され、オーディエンスは熱心に聞き入っていた



三重産業医会会長／
シャープ(株)三重事業所
産業医 酒井秀精



(株)宝輪管理本部
主任・健康委員長
山崎順菜



(株)東産業専務取締役
秋田貴彦



(特非)日本キャリア開
発協会 鈴木直子



三重大学医学部附属
病院 がん相談支援セ
ンター／緩和ケアセン
ター 堀口美穂



(独)労働者健康安全機
構 三重産業保健総合
支援センター副所長
西村元 (敬称略)